

11月14日

聖書 使徒の働き7章54～8章1節

神の右に立っておられるイエスを見た

7:54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る  
思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。7:55  
しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を  
見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイ  
エスとを見て、7:56 こう言った。「見なさい。天が  
開けて、人の子が神の右に立っておられるのが  
見えます。」

7:57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、い  
っせいにステパノに殺到した。

7:58 そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。

7:59 こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」

7:60 そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」  
こう言って、眠りについた。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。

今まで創世記を通してアブラハムの信仰の足跡を学んで来ました。

礼拝ではローマ4章に戻りました。

パウロは3章で信仰による救いを説き、4章でアブラハムもダビデも行いとは別に信仰によって救われていたことを説いています。

今日は使徒の働きからパウロ自身がどのようにして信仰による救いに目が開かれて行ったかを学んで行きたいと思います。

時系列的にはパウロが聖書の世界に始めて登場するのは今日お読みしました

使徒の働き7章58節、8章1節です。

7:58 そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。

ステパノが議会でイエス様の証しをし、石打で殺される現場において、ステパノの最期のことばをパウロは聞いていました。

あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者がだれかあったでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって宣べた人たちを殺したが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。

この正しい方とはイエス様です。

**「見なさい。天が開けて、人の子(イエス)が神の右に立っておられるのが見えます。」**

**「主イエスよ。私の霊をお受けください。」**

**「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」**



**十字架について死んだイエス様が神の右に立っておられるのが見える。**

**イエス様の復活の事実をステパノはリアルに証している。**

**神の右におられる神、神から遣わされてこの世に来られたメシヤ、復活して神の右におられる栄光のイエス様の姿がステパノに啓示され、それを証言している。**

「主イエスよ。私の霊をお受けください。」

「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」

イエス様が十字架で叫ばれた同じことばをステパノは告白しています。

それを間近でパウロは目撃、耳で聞いています。

パウロはイエス様はガリラヤの大工、  
普通の間人が自分を神と称え、  
人々に信じさせるのは異端、神を冒瀆、  
ユダヤの宗教に反する、正しいユダヤの宗教を  
ゆがめる者で排斥しなければならないと確信し  
ていました。

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。  
た。

サウロは70人議会の議員でありました。

ステパノは議会に引き出されて

6:14 『あのナザレ人イエスはこの聖なる所をこわし、モーセが私たちに伝えた慣例を変えてしまおう。』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

パウロは議員の一人として告発人のことばを聞き、ステパノの証しを聞いた上でステパノの処刑に賛成していました。

使徒22章20節においても

「また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。」と証言しています。

この確信を持って北の国外のダマスコまでクリスチャンを撲滅しようと出かけました。

その途上でパウロは復活したイエス様と出会いました。

9:3 ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。

9:4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。

9:5 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

ここで決定的な出会い、  
復活したイエス様に出会い、パウロの人生が変  
わりました。



クリスチャンになったパウロの第一声は

9:20 そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。

9:22 しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。

**パウロの信仰の原点**

**イエスは神の子**

**イエスはキリスト**

**と言う信仰の告白が出発点。**

**それはステパノの殉教の時の命がけの証し  
ダマスコ途上で復活のイエス様直々にお会いし  
て体験した信仰の原点。**

**ここからローマ書が展開されて行きます。**

イエスは神の子  
神から生まれた一人子の神  
ヨハネは20章31節

20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

**イエス様は神から生まれた一人子の神でありますから**

**神の特性を保持される、永遠、全能、無限、不変の神であります。**

人間から生まれた子は親と同じ本質を持つ人間である。

人間が作った人形はいかに精巧に作られても人形であって人間ではない。

神が創造されたものは被造物であって神ではない。

神から生まれた一人子の神イエス様は神の本質を持つ真の神であります。

**イエス様は神から生まれた神の子、真の神。**

**私たちクリスチャンも神の子と呼ばれます。**

**私たち人間は**

**父なる神様に創られた神の子、**

**神様から愛を受ける神の子**

**神様の霊を受けているから神の子**

**神様をアバ父と親しく呼べる神の子**

パウロはイエスは神の子と説教して、  
ローマ書においては

「御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、1:4 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」と明かししています。

ヨハネはイエスを神の子と告白することの大切さを教えています。

ヨハネの手紙 4:15 だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。



イエス様は神の子と告白して救われ、私たちも  
神様の愛を受け、守られる神の子とされたことを  
感謝しましょう。

**イエス様をお知らせして  
イエス様は神の子と信じ告白されて  
永遠の生命、天に国籍を持つ方が生まれるよ  
うに祈りましょう。**

祈り